

# 精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名： 針生ヶ丘病院 精神科専門医研修プログラム
- プログラム担当者氏名： 金森良  
住 所： 〒963-0201 福島県郡山市大槻町字天正坦 11  
電話番号： 024 - 932 - 0201  
F A X： 024 - 925 - 0166  
E-mail： ryo@k-washinkai.or.jp
- 専攻医の募集人数：( 3 ) 人
- 応募方法：  
履歴書を上記住所総務課宛に提出してください。封筒に「専攻医応募書類在中」と記載してください。一次判定は書類選考で行います。その上で二次選考は面接を行います。
- 採用判定方法：書類審査と面接。

## I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）  
精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。
2. 使命（全プログラム共通項目）  
患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。
3. 専門研修プログラムの特徴  
本プログラムは、民間精神科病院が基幹施設となるプログラムである。研修基幹

病院である針生ヶ丘病院は昭和 8 年に福島県で最初の精神科病院として開設した。研修連携施設である雲雀ヶ丘病院は昭和 31 年に相双地域で唯一の精神科病院として開設した。両院とも「和の心」「明るく優しく温かく」を共通の基本理念として、精神障害者のための医療、介護、保健、福祉、地域の人々の健康保持・増進に努めている。両院とも福島県立医科大学附属病院の研修連携施設になっている。基幹医療施設の針生ヶ丘病院は東京医科歯科大学附属病院、昭和大学附属烏山病院、成増厚生病院、東京都立多摩総合医療センターの研修連携施設になっている。専攻医は 3 名を予定している。

針生ヶ丘病院は、精神科急性期治療病棟を有するので、統合失調症・躁病・気分障害・認知症など主要な精神疾患の患者を受け持ち、面接、診断、治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学べる。急性期、措置入院、思春期の患者の担当医となり、精神保健指定医や専門医資格取得に必要な症例の研修ができる。認知症治療病棟および郡山市認知症初期集中支援チームを有するので認知症について専門的な研修が可能である。発達障害児（特に小児自閉症）と家族の成育支援を実施している成育支援室において、発達障害児の診断、療育の指導を受けることができる。また、近隣の総合病院で精神科リエゾンが経験できる。専攻医の希望および所属研修基幹病院のローテーションにより雲雀ヶ丘病院で災害医療の研修も可能となる。また併設する福島県認知症疾患医療センターを通し認知症に関して専門的な研修が可能である。

2022 年度から従来のプログラム枠の他に連携プログラム枠を設け連携施設（成増厚生病院、多摩総合医療センター）の研修と針生ヶ丘病院で 1 年 6 ヶ月程度の研修を行う。以上のように 3 年間の研修で精神科医として必要な諸資格を取得するとともに将来のライフワークにつながる発達障害、認知症、災害医療等の専門分野に関して経験することができることが、本プログラムの特徴である。

## II. 専門研修施設群と研修プログラム

### 1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 48 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	893	309
F1	336	340
F2	1400	1262
F3	2089	809

F4 F50	1968	226
F4 F7 F8 F9 F50	1193	201
F6	106	85
その他	392	93
		リエゾン 983

## 2. 連携施設名と各施設の特徴

### A 研修基幹施設

- ・施設名：針生ヶ丘病院 単科精神科病院
- ・施設形態：民間施設
- ・院長名：金森 良
- ・プログラム統括責任者氏名：金森 良
- ・指導責任者氏名：金森 良
- ・指導医人数：( 4 ) 人
- ・精神科病床数：( 407 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	54	96
F1	0	20
F2	14	325
F3	34	92
F4 F50	28	22
F4 F7 F8 F9 F50	17	3
F6	1	6

その他	15	35
-----	----	----

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

針生ヶ丘病院は、単科精神科病院で、精神科急性期治療病棟を有するので、統合失調症・躁病・気分障害・認知症など主要な精神疾患の患者を受け持ち、面接、診断、治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学ぶことができる。急性期、措置入院、思春期の患者の担当医となり、精神保健指定医や専門医資格取得に必要な症例の研修ができる。認知症治療病棟および郡山市認知症初期集中支援チームを有するので認知症について専門的な研修が可能である。発達障害児（特に小児自閉症）と家族の成育支援を実施している成育支援室において、発達障害児の診断、療育の指導を受けることができる。

## B 研修連携施設

① 施設名：福島県立医科大学 附属病院

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：竹石 恭知
- ・指導責任者氏名：三浦 至
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 34 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	162	17
F1	15	8
F2	27	75
F3	65	59
F4 F50	134	82
F4 F7 F8 F9 F50	94	40
F6	3	5
その他	40	15

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、福島県唯一の大学病院として特定機能病院の指定を受けている。病床数は778床であり、精神科病床は34床で運用されている。高度専門医療機関として、統合失調症(F2)、気分障害(F3)、神経症性障害(F4)のみならず、難治性の症例を中心に近年増加しつつある摂食障害(F50)や発達障害(F7,F8,F9)の診療を豊富に経験できる。統合失調症は県内でも数少ない修正電気けいれん療法やクロザピン治療施設でもある。発達障害は児童/思春期例のみならず、全国に先駆けて成人期発達障害の診療も行っている。また、整形外科や糖尿病内科とのリエゾン・コンサルテーション精神科治療も盛んであり、貴重な症例を経験できる。心理士や作業療法士とのチーム医療も充実しており、認知行動療法、精神力動に基づく精神療法などの習得もできる。

② 施設名：東京医科歯科大学医学部附属病院

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：藤井 靖久
- ・指導責任者氏名：高橋 英彦
- ・指導医人数：( 14 ) 人
- ・指導医一覧：

氏名	ふりがな	役職	勤務形態	備考
高橋 英彦	タカハシ ヒデヒコ	教授	常勤	
岡田 幸之	オカダ タカユキ	教授	常勤	
杉原 玄一	スギハラ ゲンイチ	准教授	常勤	
竹内 崇	タケウチ タカシ	准教授	常勤	
治徳 大介	ジトク ダイスケ	准教授	常勤	
塩飽 裕紀	シワク ヒロキ	准教授	常勤	
高木 俊輔	タカギ シュンスケ	講師	常勤	
藤野 純也	フジノ ジュンヤ	講師	常勤	
宮島 美穂	ミヤジマ ミホ	講師	常勤	
佐々木 祥乃	ササキ ヨシノリ	助教	常勤	
田村 赳紘	タムラ タケヒロ	助教	常勤	
四手井 友紀	シデイ ユウキ	助教	常勤	
小林 七彩	コバヤシ ナナセ	助教	常勤	
中村 啓信	ナカムラ ヒロノブ	助教	常勤	

・精神科病床数：( 41 ) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	165	8
F1	23	1
F2	469	72
F3	821	133
F4 F50	476	23
F4 F7 F8 F9 F50	46	4
F6	36	9
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

東京医科歯科大学医学部附属病院精神科は、41床の開放病棟であり、急性期の精神病状態の患者の対応は限定されるものの、十分な指導体制のもとに、生理学的検査・心理検査実施による診断や治療に対する詳細な検討、電気けいれん療法、身体合併症診療、リエゾン診療、デイケア活動や小集団精神療法への参加などの全般的な研修が可能である。また、司法精神医学、児童精神医学、老年精神医学に関しては、専門の研修体制を整備しており、全般的な研修に加えて、柔軟に取り入れることができる。

③ 施設名：昭和大学附属烏山病院

・施設形態：単科精神科病院（大学病院の機能も有する）

・院長名：真田 建史

・指導責任者氏名：田中 宏明

・指導医人数：( 6 ) 人

・精神科病床数：( 296 ) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	188	74
F1	60	42
F2	249	249
F3	307	177
F4 F50	261	39
F4 F7 F8 F9 F50	651	66
F6	42	16
その他	25	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

**【概要】**

烏山病院は都内唯一の大学附属単科精神病院であり、昭和大学医学部精神医学講座が置かれている。300床近い規模の入院施設(二つのスーパー救急病棟を含む)を持ち、総勢40名強の精神科医が診療及び研究に勤しむ恵まれた環境は全国でも随一と言える。院内には文部科学省共同利用・共同研究拠点として発達障害医療研究所と、ドラッグラグ解消のために医薬品開発への貢献に努めている臨床薬理研究所も併設されている。

大正15年創立という長い歴史をもつ本院は、統合失調症、気分障害、不安症、また認知症など代表的な疾患から、注目されつつある成人の発達障害まで幅広い精神疾患を対象とし、臨床、教育および研究の拠点機関となっている。通称スーパー救急病棟と呼ばれる措置入院や医療保護入院を受け入れ可能な精神科救急入院料病棟を持ち、国家資格の精神保健指定医の取得には、とても有利な条件を備えている。バランスのとれた実践に強い精神科医師育成のために、神経心理学、精神療法、臨床精神薬理学、また精神生理学など、いろいろな研究会にも参加可能である。

④ 施設名：雲雀ヶ丘病院

・施設形態：単科精神科病院

・院長名：熊倉 徹雄

・指導責任者氏名：熊倉 徹雄

- ・指導医人数：( 2 ) 人
- ・精神科病床数：( 254 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	91	28
F1	13	17
F2	31	45
F3	87	19
F4 F50	83	5
F4 F7 F8 F9 F50	105	7
F6	0	2
その他	26	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
  - ・昭和31年に福島県の相双地域で唯一の精神科病院として開設した。以来60年にわたり「和の心」「明るく優しく温かく」を基本理念として、精神障害者のための医療、介護、保健、福祉や地域の人々の心の健康保持・増進に努めている。
  - ・平成23年3月の東日本大震災・原発事故（以降、大震災）前は、全病床数254床、4看護単位で運営していた。その内訳は、精神一般病棟3病棟・194床、認知症治療病棟60床であった。  
また、入院以外では、精神科外来、精神科訪問看護、精神科デイケア、精神科作業療法などを実施していた。
  - ・大震災の際、当初、当区域が屋内退避区域に設定され、平成23年3月17日までに全入院患者を県内外の病院へ転院させ、一旦、休院となった。  
その後、平成23年6月に外来一部再開、平成24年1月に精神科急性期対応型病棟（60床）、平成25年11月には認知症治療病棟（60床）を再開した。（認知症治療病棟は平成28年7月から休床中）
  - ・平成30年4月から福島県認知症疾患医療センター（連携型）を開設し、関係機関と連携を図りながら地域の支援体制の充実に努めており、認知症に関して専門的な研修が可能である。
  - ・精神科急性期対応型病棟では、幅広い疾患患者（統合失調症、感情障害、スト



レス関連疾患、アルコール依存症、BPSDの顕著な認知症など)の担当医となる。また、医療保護入院、措置入院患者の担当医となり、精神保健指定医や専門医資格取得に必要な症例の研修ができる。

- ・ 児童精神科外来では発達障害児の診断、治療の指導を受けられる。
- ・ 大震災以降、相双地域において原発以北で稼働している唯一の精神科病院であるため、災害精神医療について学ぶことができる。

⑤ 施設名：医療法人社団翠会 成増厚生病院

- ・ 施設形態：民間病院
- ・ 院長名：中村 満
- ・ 指導責任者氏名：中村 満
- ・ 指導医人数：( 14 ) 人
- ・ 精神科病床数：( 436 ) 床
- ・ 疾患別入院数・外来数 (年間)

- ・ 疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数	入院患者数
F 0	42	69
F 1	196	228
F 2	311	229
F 3	444	217
F 4 F 5 0	222	29
F 4 F 7 F 8 F 9 F 5 0	231	42
F 6	4	15
その他	286	39

- ・ 施設としての特徴

都市型の民間精神科病院であり、精神科スーパー救急病棟に加えてアルコール治療

病棟・ストレスケア病棟などの急性期治療病棟も有している。精神科の急性期治療を全般的に行っており、思春期から老年期まで多岐にわたる症例を数多く経験することができる。精神保健福祉士が 365 日 24 時間専従で、身体科救急から精神科救急への相談や要請に対応する「区西北部精神科情報センター」を病院内に開設しており、東京都区西北部における精神科救急の中心的役割を担っている。内科病棟も併設し内科医が常勤しているので、身体的な合併症の管理が必要な症例も内科医指導の下で多く経験することができる。また急性期入院 病棟における治療だけでなく社会復帰病棟からの地域移行支援も積極的に行い、在宅移行後も地域支援室が中心となり患者の治療やケア、生活のサポートを行っている。最近の試みとしては早期予防の目的も兼ね、アルコール依存症患者の子供へのサポートも行っている。救急・急性期から回復期治療、さらには予防や早期介入まで幅広く精神科医療を学ぶことができる病院である。

・ 併設施設等

精神科救急情報センター、グループホーム、生活訓練施設

⑥ 施設名：東京都立多摩総合医療センター 精神神経科

- ・ 施設形態：公的病院
- ・ 院長名： 檜山鉄矢
- ・ プログラム統括責任者氏名：岩田 健
- ・ 指導責任者氏名：岩田 健
- ・ 指導医人数：( 5 ) 人
- ・ 精神科病床数：( 34 ) 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	137	17
F1	29	24
F2	299	267
F3	331	112

F4 F50	764	26
F4 F7 F8 F9 F50 (18歳未満)	49	39
F6	20	32
その他	0	リエゾン 983

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

多摩総合医療センターは、多摩地域唯一の都立総合病院である。32科756床からなる当センターは、ほぼ全ての診療領域を網羅しているが、救急医療には特に力を入れている。精神神経科も例外ではなく、多摩地域の精神科救急の基幹病院として、夜間・休日の緊急医療（いわゆる三次救急）の主要な役割を担っている。さらに、総合病院における有床精神科であるため、東京都の精神科身体合併症事業においても中心的な役割を果たしている。精神科救急と身体合併症を二つの軸である。専攻医は総合病院ならではの豊富な医療資源を生かして各種検査を行い、薬物療法、精神療法などを柔軟に組み合わせて最善の治療を行うプロセスを体験することができる。診療は、医師のみならず、看護師、心理士、精神保健福祉士等とのチーム医療が基本となっている。精神科合併症妊娠患者の診療において産婦人科と合同カンファレンスを開いたり、地域の保健師と協働をしたりする。緩和ケアチームに参加することもできる。②東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科 日本で有数の小児専門の精神科である。診療においては医師、看護師の他、心理士、保育士、社会福祉士および院内学級の教師が有機的に結び付いたチーム医療を行っている。幼児、学童、思春期デイケアが充実しており、リエゾン医療、虐待症例にも力を入れている。児童・思春期のあらゆる精神疾患を対象とするが、高度に専門化された医療であるため、専攻医は精神科臨床の基礎を身に付けた上で研修に臨むことになる。

### 3. 研修プログラム

#### 1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳に従って専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

#### 到達目標

最初の2年間は原則的に基幹病院である針生ヶ丘病院にて研修し、3年目は雲雀ヶ丘病院または本プログラム施設である大学附属病院で研修を行う。

1, 2年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法および精神療法の基本を学び、リエゾン精神医学を経験する。特に面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法として認知行動療法、力動的精神療法の基本的な考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。院内の研究会や学会で発表・討論する。

3年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携病院は専攻医の指向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的精神療法を上級医の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神科医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表をする。

#### 2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

#### 3) 個別項目について

##### ① 倫理性・社会性

主に基幹施設の各病棟および外来で、急性期治療病棟では患者の人権を守りながら治療すること、認知症治療病棟、合併症病棟では患者の主体性を尊重しながら寄り添い、患者のみならず家族を支援すること、外来では地域の多職種との情報の共有、協力姿勢を学ぶ。医師としての責任感や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

##### ② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に自己研鑽し、自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で報告することを基本とし、その課程で過去の類似症例や最新の知見を文献的に調査する姿勢を心がける。その中で特に興味深い症例については、学会などでの発表や論文作成を進める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの習得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

各自文献検索や参考図書を活用し、臨床活動に役立てられるよう研鑽を積んでいく。

4) ローテーションモデル

(通常プログラム) 典型的には1, 2年目は基幹病院である針生ヶ丘病院で研修を行う。ここで精神科医としての基本的な知識・技能・態度を身につける。その後、3年目以降は連携施設(B①~④)にて研修を行う。

(連携プログラム) 2022年度から従来のプログラム枠の他に連携プログラム枠もあり連携施設(成増厚生病院、多摩総合医療センター)の研修と針生ヶ丘病院で1年6ヶ月程度の研修を行う。

ローテーションを含め研修における具体的な内容については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。

5) 研修の週間・年間計画

別紙2と別紙3を参照

4. プログラム管理体制について

委員長 医師：金森 良

医師：瀧口 一夫  
医師：熊代 新  
医師：増井 寛治  
医師：三浦 至  
医師：高橋 英彦  
医師：中村 暖  
医師：熊倉 徹雄  
医師：中村 満  
医師：岩田 健  
看護師：橋本 佳代子  
精神保健福祉士：有我 優子  
事務：金森 悦

・プログラム統括責任者

金森 良

・プログラム管理委員会

委員長：プログラム統括責任者

委員：基幹施設・連携施設の医師（全施設からそれぞれ1名以上）

多職種（看護師、PSWを含む2名以上）

・連携施設における委員会組織

研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。

5. 評価について

1) 評価体制

針生ヶ丘病院：金森 良

針生ヶ丘病院：瀧口 一夫

針生ヶ丘病院：熊代 新

針生ヶ丘病院：増井 寛治

福島県立医科大学 附属病院：三浦 至

東京医科歯科大学医学部附属病院：高橋 英彦

昭和大学附属烏山病院：中村 暖

雲雀ヶ丘病院：熊倉 徹雄

成増厚生病院：中村 満

多摩総合医療センター：岩田 健

## 2) 評価時期と評価方法

- ・3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6 か月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・専攻医は、指導医および研修プログラムについて6 か月ごとに評価し、内容について研修プログラム管理委員会に提出する。研修プログラム管理委員会は、その内容を指導医にフィードバックするとともに、次年度の研修プログラム改定の参考にする。

## 3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総合的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1 回行う。

針生ヶ丘病院において専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

—専攻医研修マニュアル(別紙)

—指導医マニュアル(別紙)

- ・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも年1 回は形成的自己評価を行うこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い記録する。少なくとも年1 回は指定された研修項目を念じごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価を行う評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目について必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立てる。

## 6. 全体の管理運営体制

- 1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理)  
各施設の労務管理基準に準拠する。
- 2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹施設の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。



別紙 2 : 週間計画

公益財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院 (基幹施設)

週間スケジュール

針生ヶ丘病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00-12:00	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 *4 病棟業務
13:00-17:00	外来業務 病棟業務	外来業務 ケースカンファ レンス *2	外来業務 病棟業務	医療安全等研修 会	外来業務 病棟業務
16:30-17:30	医局会 症例検討会 *1				
研修会等	Web 会議等		臨床脳波判読会 *3		司法精神医学勉 強会 *5

\*1 : 隔週で医局会と症例検討会を行う

\*2 : 急性期病棟で多職種によるケースカンファレンスを行う

\*3 : 臨床脳波判読会は月 1 回

\*4 : 総合病院でのリエゾンコンサルテーションを行う

\*5 : 司法精神医学勉強会は月あるいは金に月 1 回程度

※週 40 時間超過は自由参加

週間スケジュール

福島県立医科大学附属病院

週間計画

	月	火	水	木	金
8:30~	朝会(司会) 朝回診	連携施設への診療応援	朝会(司会) 朝回診	朝会(司会) 朝回診	朝会(司会) 朝回診
10:00~	病棟指示 入院処方	連携施設 新患/再来	新患予診/学生 指導	再来 /学生指導	他科回診/リエゾン 診療業務
11:00~	病棟指示		新患予診/学生 指導		
12:00~ 13:00~	昼食 病棟連絡会議	昼食	昼食	昼食	昼食
14:00~	症例検討会	連携施設 病棟業務	病棟業務/ 学生指導	再来	他科回診/リエゾン 診療業務
15:00~	総回診				
16:00~	医局会				
17:00~	脳波/精神病理勉強会 抄読会	連携施設 当直業務	症例検討 /夕回診	症例検討 /夕回診	症例検討 /夕回診
18:00~	研究/論文指導		研究/論文指導	研究/論文指導	研究/論文指導
19:00~ 20:00~			夕食 整形外科とのリエゾンカンファ ランス(月1回)		

※週 40 時間超過は自由参加

## 週間スケジュール

東京医科歯科大学病院

	月	火	水	木	金
午前	朝ミーティング 病棟業務 (リエゾン)	朝ミーティング 病棟業務 (リエゾン)	朝ミーティング 病棟業務 (リエゾン)	朝ミーティング 病棟カンファ 抄読会	朝ミーティング 病棟業務 (リエゾン)
午後	病棟業務 (リエゾン)	病棟業務 (リエゾン)	病棟業務 (リエゾン)	病棟業務 (リエゾンカン ンファ) 脳波カンファ (隔週、希望者)	病棟業務 (リエゾン)
17時以降	説明会など (不定期)			講演会など (不定期)	

※週 40 時間超過は自由参加

週間スケジュール

<昭和大学附属烏山病院>

	月	火	水	木	金	土
0830-0900	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング
0900-1200	病棟業務 新患予診 ECT 業務	病棟業務 新患予診 初診陪席	病棟業務 新患予診 初診陪席	病棟業務 新患予診 ECT 業務	病棟業務 新患予診 ECT 業務	病棟業務 新患予診 外来業務
1300-1700	院長回診 病棟業務 入退院カンファレンス	病棟業務	病棟業務	教授相談会 病棟業務 入退院カンファレンス	病棟業務	病棟業務 クルズス
1700-1900	医局会・抄読会ケースカンファレンス					

※週 40 時間超過は自由参加

週間スケジュール

公益財団法人金森和心会 雲雀ヶ丘病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00-12:00	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 (発達障害) 病棟業務	外来業務 (発達障害) 病棟業務
13:30-17:00	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 (発達障害) 病棟業務	外来業務 (発達障害) 病棟業務
17:15-18:30	医局会 事例検討				
研修会等	医療安全等研修 会 web 会議				

※週 40 時間超過は自由参加

週間スケジュール

医療法人社団翠会 成増厚生病院

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	デイケア業務 病院外来陪席	病棟業務	
午後	クリニック 外来業務	医局会 症例検討会	病棟業務 抄読会	病棟業務	ケース カンファレンス	

※週 40 時間超過は自由参加

○当直（月 2 回程度 1 年次 10 月より）

<週間スケジュール>

東京都立 多摩総合医療センター 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	申し送り 病棟回診 ECT 初診 カンファ	申し送り 病棟回診 初診  カンファ	申し送り 病棟回診 病棟  カンファ	申し送り 病棟回診 外来  カンファ	申し送り 病棟回診 リエゾン 病棟 カンファ
午後	病棟 緩和ケア	病棟	病棟	外来	集団精神療法 リエゾン 病棟
夜間	病棟カンファ 脳波カンファ(月1) 精神病理カンファ(年6)				外来カンファ

上級医と共に週1の当直研修あり

2ヶ月に一度、産婦人科との合同カンファレンスあり

希望者は緩和ケアに参加できる。

抄読会は精神病理と精神薬理の抄読会を行っている。他に外来通院患者のケースカンファを月に1~2回。その他にジャーナルクラブも初期研修医を中心に月1回開催しており参加できる。

脳波カンファは外部講師(月に1~2回)

上記の表は例であり、個人ごとにスケジュールは異なる。

※週40時間超過は自由参加

別紙 3：年間計画（基幹施設）

公益財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	院内研究発表会参加
11月	東北精神神経学会参加 精神科病院協会精神医療懇話会参加
12月	
1月	
2月	福島県精神医学会参加
3月	



福島県立医科大学 附属病院

年間スケジュール

4月	<p>オリエンテーション</p> <p>SR1 研修開始</p> <p>SR2, 3 前年度研修報告書提出</p> <p>指導医の指導実績報告書提出</p> <p>研修医グラウンドラウンド（毎月開催）</p> <p>月2回の教育セミナー開催（web会議システム）</p>
5月	<p>日本トラウマティック・ストレス学会（任意）</p> <p>東北精神神経学会演題応募</p>
6月	<p>日本薬物脳波学会（任意）</p>
7月	<p>講座主催特別講演参加</p> <p>福島県 ADHD 治療研究会（任意）</p> <p>東北精神神経学会参加（任意）</p>
8月	
9月	<p>日本心身医学会東北地方会（任意）</p> <p>日本生物学的精神医学会（任意）</p>
10月	<p>SR1・2・3 研修中間報告書提出</p>
11月	<p>福島県精神医学会学術大会演題応募</p> <p>日本臨床神経生理学会（任意）</p> <p>日本臨床精神神経薬理学会（任意）</p>
12月	<p>研修プログラム管理委員会開催</p> <p>講座主催特別講演参加</p>
1月	
2月	<p>福島県精神医学会学術大会 演題発表</p> <p>日本心身医学会東北地方会（任意）</p>
3月	<p>日本統合失調学会（任意）</p> <p>SR1・2・3 研修報告書</p> <p>件数プログラム評価報告書の作成</p>

## 年間スケジュール

東京医科歯科大学病院

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	教室同窓会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8月	
9月	日本生物学的精神医学会年会（任意）
10月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会年会（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 東京精神医学会学術集会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成 東京精神医学会学術集会参加（任意）

年間スケジュール

<昭和大学附属鳥山病院>

4月	オリエンテーション
5月	フレッシュ症例検討会
6月	日本精神神経学会学術総会参加（任意） 昭和大学医学部精神医学講座研究会(うつ病)参加
7月	フレッシュ症例検討会
8月	
9月	日本生物学的精神医学会年会（任意） 昭和大学医学部精神医学講座研究会(睡眠障害)参加 講座ワークショップ参加
10月	日本臨床精神神経薬理学会年会（任意） 昭和大学医学部精神医学講座研究会(双極性障害)参加
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 東京精神医学会学術集会参加（任意）
12月	フレッシュ症例検討会
1月	
2月	フレッシュ症例検討会 昭和大学医学部精神医学講座研究会(統合失調症)参加
3月	東京精神医学会学術集会参加（任意）

年間スケジュール

公益財団法人金森和心会 雲雀ヶ丘病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	院内研究発表会参加
11月	東北精神神経学会参加 精神科病院協会医学会参加
12月	
1月	
2月	福島県精神医学会参加
3月	

【年間スケジュール】

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 情報セキュリティ研修 行動制限研修
7月	感染研修 リスク研修
8月	
9月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出
10月	防災研修
11月	翠会ヘルスケアグループ地域精神保健学会 感染研修 行動制限研修
12月	日本精神科救急学会参加（任意）
1月	リスク研修
2月	感染研修 行動制限研修
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成・提出

<年間スケジュール>

東京都立多摩総合医療センター

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	日本精神科救急学会学術総会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成